

教育改善に向けた教育サロンの構想と実践報告

A 'salon' plan for improvement of university education and its present status

佐藤 伸平^{*1}, 佐藤 正英^{*2}, 森 祥寛^{*2}
 Shimpei SATO^{*1}, Masahide SATO^{*2}, Yoshihiro MORI^{*2}
^{*1}金沢電子出版株式会社
^{*1}Kanazawa e-Publishing Co.,Ltd.
^{*2}金沢大学総合メディア基盤センター
^{*2}Information Media Center, Kanazawa University
 email: shimpei@kepnet.co.jp

あらまし：真の意味での教育改善は、現場の教員一人一人の意識・意見・意欲によると考えられる。ここでいう教員とは、決して教育学の専門家や声高に教育改善を訴える方のみを指すのではなく、日々の教育・研究に苦勞されている全ての方々をさす。我々は、いわゆる「ただの教員」の経験や知見、愚痴を含めた率直な意見を集積する手法の一つとして「教育サロン」立ち上げた。立ち上げにいたる構想の紹介とともに、多少の成果を報告したい。

キーワード：授業研究、質保証、事例集積、情報配信

1. 経緯

教育改善の必要性ならびに新たな教育手法の開発に関して、国内外から、多くの研究論文やニュース、話題等が日々発表・配信されている。これらの多くは、どちらかという教育・教育学・心理学等の専門家による主導であったり、国家戦略的な推進であったりすることが多い。こうした流れの中で、個々の大学や個々の学部、個々の教員が、実のところどのように感じてどのように対応しようとしているのか、大いに興味があるところである。このような動きに対して、「感化されて積極的に新たな試みにチャレンジしているもの」「何らかの戦略に基づいて組織的に改革を進めようと考えているもの」あるいは「限りなく否定的で何とか変化を阻止できないかと考えているもの」等、多様な動きもある。しかし大多数の教員は（賛成派、反対派を問わず）積極的に行動に表すことはない。いわゆる普通の教員は、ニュース報道や所属する部局からの事務連絡等で、FDをはじめとする教育改革の類いの情報を知り、それらを行わなくてはならないという意識にあるものの、見解や意見を表にだすことはほとんどない。

これら非常に多くの、水面下でひっそりとしている（ように見える）普通の教員の、教育改革に対する考えや意見、見識を表に出すためにはどうしたら良いだろうか。

これまで、このような教員が何かをやってみようとした時、何かをやろうとしてつまづいてしまった時、また何かをして手応えを感じた時、良いも悪いも含めてそれらを発信し、伝える場所が少なかったように思う。

各教員が専門とする研究分野であれば、それがたとえ小さかったとしても、発見や発見できそうな手応えがあれば、研究室や研究集会、学会等で議論

できるであろう。それにより、実験や論文等、より具体的なものとして表現していくことになるだろう。これらは研究者であれば当然のようにおこなっている。しかし教育に関しては、気軽に議論したり、悩みを打ち明けたり、批判したり、といった場がなかなか存在していないのではないだろうか。専門分野の研究活動と同様の行動が日常化することが重要なのではないだろうか。



図1 サロンのロゴ（予定）

そこで、こうした試みの一つとして「サロン形式の場の提供」を立ち上げるにいたった。研究分野や専門領域、研究に対するアプローチの仕方などは研究者毎に千差万別であるがごとく、研究者のおこなう教育手法も千差万別であるであろうが、教育の際の悩みや喜び、失敗例や成功例などは、同じく教育に従事しているものとしては共通の話題として議論

や意見交換できるものであろう。

金沢大学において、このようなサロンの場を「e教育サロン」と名付け、できるだけ気兼ねなく教員が本音を話せるような場を提供することとした。なお図1は、そのサロンの象徴となるロゴデザイン案（原稿提出時点）である。

2. サロンの概要

2.1 常時教員のいる体制

サロンを設置しても、そのサロンに訪れた時、他に教員がいない状況は好ましくない。しかし現役の教員を、専門分野の研究室等から離れた場所にある「おしゃべりの場」に常駐させることは不可能である。そこで定年退職した教員や非常勤で勤務している教員に呼びかけ、できるだけサロンに滞在してもらえる状況をつくることにした。これにより、サロンに来たときに話し相手が一人もいないということができるだけ防ぐことができると考えている。

そしてこのサロンを休憩室や講師控え室として使ってもよいし、喫茶室がわりに使ってもらってもよいとすることで、できるだけ居心地の良い場所にし、ふいに訪れた教員であっても、誰かしらとおしゃべりできるようにすることが大切である。

2.2 常時稼働している体制

「毎月第二火曜日18時から」のように、特定の時間のみしかサロンがオープンしないというのでは、利用者は利用しづらい。必要なときに、時間の空いたときに、あるいはふと思いついたときにサロンに立ち寄れる状況を形成したい。そこで、毎日いつでも、とまではいかないが、午後の数時間を毎日必ずオープンする。これによって、教員は空いた時間に訪れることができるようになる。

2.3 研究会の開催

敷居の低いおしゃべりの場としての日常的なサロンと平行して、定期的にテーマを定めて専門家や関係者も交えた勉強会や検討会などを開催していく。テーマとしては、ホットな時事的な内容、最新の教育学・教育工学の理論の学習、体験談・失敗談などの検討、教育界に対する新たな提言などを想定している。

2.4 情報の蓄積と共有

サロンでの会話や議論で取り上げられた情報は、個人情報や機密情報に関わる部分を除いてドキュメント化して蓄積し、ナレッジベース化する。これらは一定の情報処理を経た後に、サロンのメンバー、サロンを訪れた人たちに対して随時公開していく。

2.5 その他

最新の学会や研究集会の情報、報道やニュース関連、先進事例などが閲覧できるように準備する。また、お茶お菓子コーヒー等を準備し、気楽な雰囲気を演出する。

3. サロンの実施計画

サロンは毎日開催（平日13:00～17:00を予定）を基本とし、勉強会や事例検討会などを毎月2回程度開催する。また、講演会やシンポジウムなどを数ヶ月に1回程度開催（初回は2013年8月初旬を予定）する。

サロン開催に向けたスケジュールは以下の通りである。

2013年4月～6月：サロン設置のための準備および告知

2013年7月初旬：サロン稼働

また、勉強会等のテーマの一例として検討している話題は、

- ・リメディアル教育
- ・ICTを活用した教育法の研究
- ・教育課程の体系化（再構築）
- ・eラーニングシステム・教材の研究
- ・プレメントテスト
- ・高大接続・大学初年次教育
- ・学生のメンタルヘルス
- ・双方向型授業・少人数指導
- ・落ちこぼれ学生への対応
- ・金沢大学の学域学類制
- ・AO入試

などである。



図2 サロンのイメージ

4. 実践経過報告

2013年7月にサロン稼働開始予定であるため、本件発表に際しては、サロン開始以降約2ヶ月間の実践報告をおこないたい。